



用途

- 工業排水
- 都市下水
- 管轄区域をまたぐ下水
- 下水処理場
- 湧水の放出
- 井戸揚水試験



パーマ・ボラスフリュームは、1930年代に開発された長スロートフリュームの一種で、適切な傾斜を必要とする以外にほとんど設置制約が無いいため、既存管路内の都市下水の測定用に設計されました。

現在、パーシャルフリュームに次いで2番目に一般的なフリュームであるパーマ・ボラスフリュームは、都市下水や工業排水の測定によく使用されます。

他のフリュームとは異なり、パーマ・ボラスフリュームは以下のような様々な構成で利用可能です：

- アプローチ付きの固定構成
- アプローチ付きの短セクション構成
- アプローチなしの固定構成
- 挿入型
- カットバック型

これらの構成の主な違いは、フリュームの設置方法（挿入型やカットバック型の場合は管路内に、固定構成や短セクション構成の場合は管路と直列に設置）およびアプローチ区間の有無です。

カスタマイズ



Openchannelflow 社は、設置方法、接続、流量・水位測定アクセサリーの幅広い選択肢を提供しており、特定の現場ニーズに応じてフリュームをカスタマイズすることが可能です。

Openchannelflow 社は、水および排水の測定用フリュームの最も幅広い選択肢を提供しています。**Openchannelflow** 社のフリュームは高精度かつコスト効率に優れており、幅広いカスタマイズが可能で、最も過酷な用途にも耐えうる設計となっています。

独自設計

標準化されたCutthroat（首切り）、HS/H/HL、パーシャル、またはRBCフリュームとは異なり、パーマ・ボラスフリュームは各フリュームメーカーによって独自に設計されています。業界標準（ASTM D 5390）は存在しますが、この標準はパーマ・ボラスフリュームの一般的な形式に適用されるもので、固有の設計を対象としたものではありません。ただし、一般的にほとんどのパーマ・ボラスフリュームは、U字断面と台形のスロートを有しています。

設計の規格は存在しないため、1つのメーカーが製造したパーマ・ボラスフリュームの特性を、他のメーカーのものと同じとみなすことはできません。

長スロートのフリュームであることで、標準サイズ以外の中間サイズや非標準サイズのパーマ・ボラスフリュームに対しても流量関係を知ることができます。

用途

パーマ・ボラスフリュームは通常、測定対象となる管路のサイズに合わせて設計されます。しかし、最大の精度を実現するためには、フリュームのサイズは予測される流量によって決定されるべきです。

そのため、対象の管路の大きさに対して、フリュームが一回り大きいまたは小さい場合があるのは珍しくありません。ただし、必要な管路とフリューム間の遷移を考慮すると、フリュームと管路の大きさの差が一回り以上になることは稀です。

パーマ・ボラスフリュームはパーシャルフルームに比べて使用可能な流量範囲が狭く、精度もパーシャルフルームほどではないですが、これらの制限は通常、コストの低さと設置の容易さによって相殺されます。

また、他の長スロートのフルームと同様に、パーマ・ボラスフリュームは上流側水位と下流側水位の比が85%と高いため、上流、下流の水位差が問題となるような場面での適用に優れた選択肢となります。

設置



- 自立型
- 土水路
- PMMタイプマンホール
- 地上設置インクロージャー

流量・水位測定アクセサリ



- 水位計
- スティリングウェル
- バブラーチューブ
- 超音波センサーブラケット

接続端部



- スタブエンド
- フランジ
- コーキング管継手
- 翼壁型